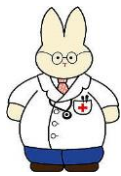


めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

2021.1月 NO. 160

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

2021年を迎えて

皆様、あけましておめでとうございます。
昨年はコロナ禍の1年でした。予定していた企画がキャンセルされ、人と会うこともかなわず、すべてが空しく、虚無感にさいなまれる人も多くいました。私もその一人です。なぜ、人はこれほどまでに苦しみ、悲しまなくてはいけないのでしょうか。

長い年月をかけて準備をしてきたイベントが延期や中止となりました。全国大会を目指してきた若者にとって、一生で一回のチャンスをあきらめなければいけない人もいました。今まで永年守ってきたお店を閉じないといけない人もいます。仕事が急に減ってしまい、転職しないといけない人もいます。

なんという空しさ なんという空しさ、すべては空しい。（コヘレトの言葉一章二節）

旧約聖書の中で、ヨブ記と並んで印象的なコヘレトの言葉は、心に響きます。そのメッセージの意味は、すべては空しいけれど、それでも生きていきなさいと私は解釈しています。

実存主義の祖といわれるキルケゴールは、死に至る病の中で、絶望について考察をしました。それに対して、カミュは、個人ではなく、集団における不条理を記述しました。

集団的な不条理の条件として、

1. 巨大な厄災、
2. 対抗しようがない、
3. 誰に対しても起こる

の3つを挙げています。

2020年は、まさに集団的な不条理の年でした。たとえ世の中が虚無に満ち、すべてが空しく虚無感にさいなまれていたとしても、希望の灯を消さず、それぞれの地域で苦しむ誰かのために、思いを寄せ、行動できる私たちでありたいと願います。2021年は、志のある仲間が、それぞれの地につながり広がっていくことを夢見ています。

今年もよろしくお祈りします。（小澤竹俊）

在宅医療が求められること

コロナ感染拡大は、日常の生活に大きな影響を与えております。めぐみ在宅クリニックでも、細心の注意を払いながら、在宅で医療を必要としている患者さん・家族の支援を継続しています。特に入院すると家族と面会できないため、以前よりも自宅で過ごすことを希望する患者さんも増えてきました。

大切なことは、一度しかない人生にあって、後悔が少ない過ごした方を医療の立場でどのように応援できるのか。そのために、地域で支援にあたる各事業所と連携を深めていきたいと思っております。

コロナ禍での ACP

コロナ感染が、クリニック周辺でも拡がりつつあります。今後、高齢者が発熱で呼吸状態が変化しても、入院できない時代が来る危険性もあります。事前に緊急時の対応について話し合っていたとしても、希望の選択肢を現実として選べない社会が近づいています。そのとき、私たちはどのように向き合えば良いのか、大きな課題です。

診療実績

	2006- 2019年	2020年 1-9月	10月	11月	12月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	6,074	704	679	660	8,117	89,226
自宅永眠	2,470	138	21	19	19	197	2,667
施設永眠	409	43	6	5	3	57	466
在宅 (自宅+施設)	2,879	181	27	24	22	254	3,133
病院永眠	794	50	11	6	8	75	869